



泌尿器がん 2023年3月

Oncologist Fact Report

泌尿器がん（前立腺がん、尿路上皮がん）診療医師の
治療実態・情報収集に関する調査レポート

株式会社メディカルトリビューン

Urological cancers '23



東京新宿メディカルセンター 副院長 赤倉功一郎 先生

前立腺がんは、近年日本において最も増加しているがんの1つで、2017年以降は男性がんで罹患者数が第1位となっています。一方で、新薬の開発も目覚ましく、2014年にイクスタンジ、ザイティガ、ジェブタナが承認されたことで去勢抵抗性前立腺がんの治療は大きく変化し、その後もBRCA1/2遺伝子変異陽性に対するリムパーザが承認され、選択肢も増えました。そして今話題になっているのが、転移性ホルモン療法未治療の前立腺がんに対し初めからホルモン療法に新規アンドロゲン受容体標的薬や抗がん薬を併用するアップフロント療法です。そのような中、2023年2月に承認されたのが遠隔転移を有する前立腺がんへのニューベクオで、ドセタキセルとの併用によるトリプレット療法の優位性が示されました。さらに、転移性去勢抵抗性前立腺がんにおいてはPROpel試験の最終解析結果が報告され、BRCA1/2遺伝子変異の有無にかかわらず、ザイティガ+リムパーザが1次治療から使用できる可能性が示されています。

本調査では泌尿器科、腫瘍内科の先生方を対象に診療や情報収集の実態をお伺いしましたが、前立腺がん治療において今後どのように薬剤選択が変わるのか、先生方のご意向を知る機会となりました。

また、尿路上皮がんの薬物療法は、長らく化学療法のみでしたが、近年免疫チェックポイント阻害薬や抗体薬物複合体が選択肢に加わり、患者さんの生命予後延長に貢献しているものの、これまでにない有害事象への対策も重要となります。チーム医療と一言で言うのは簡単ですが、施設ごとに状況やマンパワーは異なり、今回の調査は施設別のチーム医療体制・連携状況や課題を把握するデータが得られました。

一方で患者さんにとって新しい薬剤の登場はメリットばかりではなく、治療費の自己負担増加への懸念も医師としては考えなければならない要素となります。実際に患者さんが治療費について医師に本音可言えているのかは手探り状況の中、患者さんの声が定量的なデータとして示されましたので、今後の診療に活かしていきたいと考えます。

前立腺がん、尿路上皮がんともに今後も薬剤の開発が期待され、医師としては嬉しく思う反面で情報のアップデートが欠かせません。泌尿器がん領域における最新情報の発信・共有、課題の解決に向けた一助として本レポートを活用していただければ幸いです。

目次

1	本サービスご提供の背景・泌尿器がんに関するレポートに取り組む背景	3
2	調査概要	6
	● 回答者属性	
3	エグゼクティブサマリー	18
4	調査結果詳細	
	● 第1部：泌尿器がんの治療実態	
	– 4-1：前立腺がんの治療薬／開発品の認知状況	23
	– 4-2：尿路上皮がんの治療薬／開発品の認知状況	74
	– 4-3：治療方針／チーム医療	106
	● 第2部：泌尿器がんを診療する医師の情報収集実態	
	– 4-4：日常診療（医療系専門サイトへのアクセストリガーや入手したい情報、オンラインMRの利用含む）	121
	– 4-5：製薬企業のWEBサイト・MR／MSL／オンラインMR評価	139
	– 4-6：カスタマージャーニー	156
	– 4-7：キャズム理論／製薬企業発信情報の信頼度別の考察	217
	● 第3部：泌尿器がんの患者調査	
	– 4-8：まとめ・回答者属性	242
	– 4-9：主治医とのコミュニケーション・就労の状況	249
	– 4-10：薬物療法の状況	256
	– 4-11：治療に関する情報収集・アプリ	265

調査概要

	医師	患者
調査対象者条件	<ol style="list-style-type: none">1. 泌尿器科、腫瘍内科のいずれかに該当する医師2. 直近1年間に以下の患者をいずれも診療<ul style="list-style-type: none">● 前立腺がん : 5人以上● 尿路上皮がん : 1人以上	<ol style="list-style-type: none">1. 泌尿器がんの薬物療法経験がある2. 20歳代以上の男女
標本抽出	Medical Tribune ウェブ 医師会員	一般消費者パネルからのランダム抽出
調査手法	WEBアンケート調査	WEBアンケート調査
サンプル数	202ss	200ss
調査時期	2023年1月31日～2月13日	2023年1月26日～30日

調査対象の薬剤一覧

前立腺がん

製品名 (一般名)	企業名	適応症	発売/ 適応取得
イクスタンジ (エンザルタミド)	アステラス製薬	去勢抵抗性前立腺がん	2014年5月
		遠隔転移を有する前立腺がん	2020年5月
アーリーダ (アバルタミド)	ヤンセンファーマ /日本新薬	遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺がん	2019年5月
		遠隔転移を有する前立腺がん	2020年5月
ニューベクオ (ダロルタミド)	バイエル薬品 /日本化薬	遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺がん	2020年5月
		遠隔転移を有する前立腺がん注1	2023年2月
ザイティガ (アピラテロン)	ヤンセンファーマ	去勢抵抗性前立腺がん	2014年9月
		内分泌療法未治療のハイリスクの予後因子を有する前立腺がん	2018年2月
リムパーザ (オラパリブ)	アストラゼネカ /MSD	BRCA遺伝子変異陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺がん	2020年12月
		1次治療における転移性去勢抵抗性前立腺がん注2	※未定
ジェブタナ (カバジタキセル)	サノフィ	前立腺がん (外科的・内科的去勢術を行い、進行または再発が確認された患者)	2014年9月
ソーフィゴ (塩化ラジウム)	バイエル薬品	骨転移のある去勢抵抗性前立腺がん	2016年6月

注1、注2は実査時は未承認のため、処方意向のみ聴取

尿路上皮がん

製品名 (一般名)	企業名	適応症	発売/ 適応取得
キイトルーダ (ベムプロリズマブ)	MSD	がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮がん	2017年12月
オブジーボ (ニボルマブ)	小野薬品工業/ ブリistol・マイヤーズ スクイブ	尿路上皮がんにおける術後補助療法	2022年3月
パドセブ (エンホルツマブ ベドチン)	アステラス製薬	がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮がん	2021年11月
バベンチオ (アベルマブ)	メルクバイオファーマ/ファイザー	根治切除不能な尿路上皮がんにおける化学療法後の維持療法	2021年2月

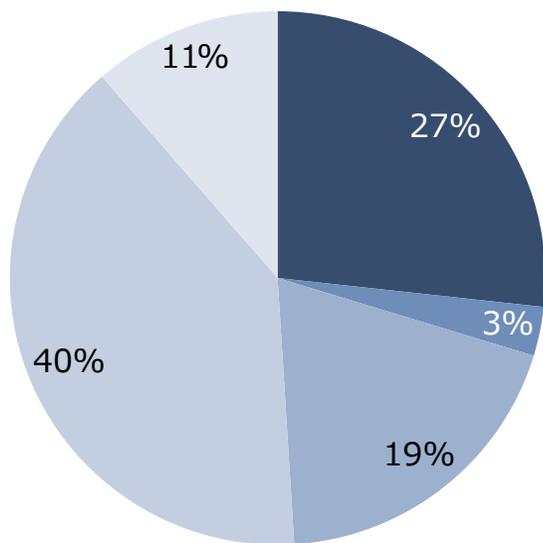
全体

- ✓ 勤務施設は、一般病院が最も多く40%、次いで大学病院が27%であった
- ✓ がんゲノム医療関連施設が53%であった
- ✓ 病床数は200床以上500床未満の中規模病院と500床以上の大規模病院が各4割前後を占めた

※医院・診療所・クリニックは「200床未満」としてカウント

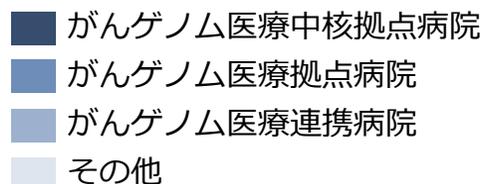
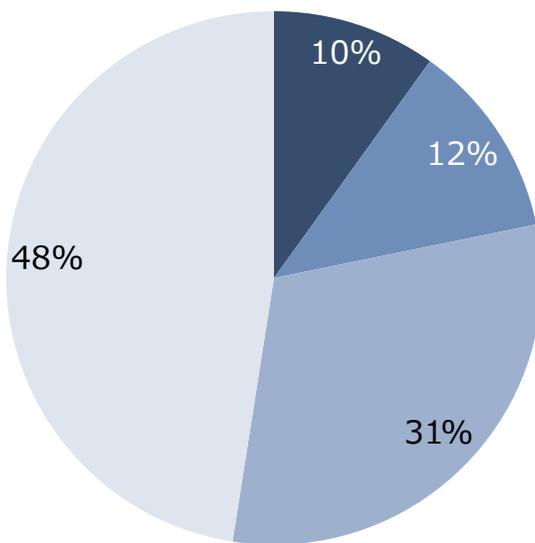
勤務施設

(n=202)



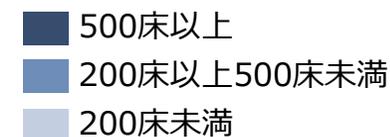
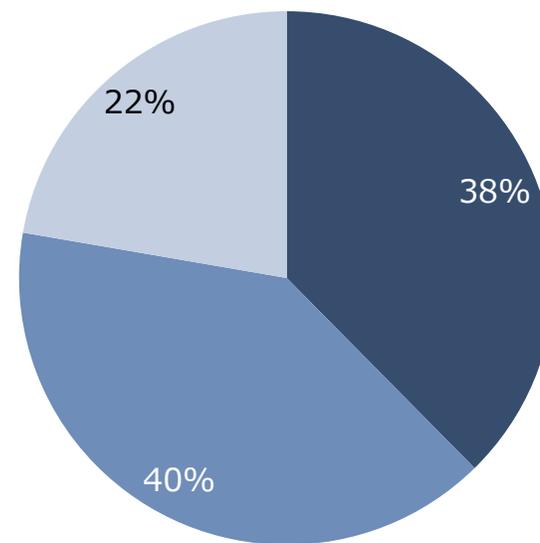
ゲノム医療における施設区分

(n=202)



勤務施設の病床数

(n=202)



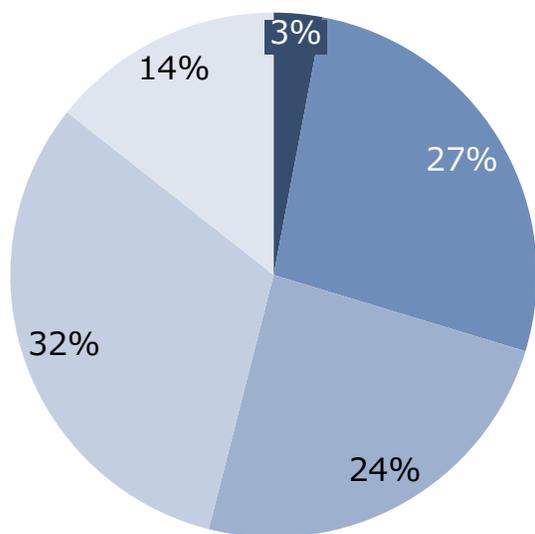
SQ2.先生の主な勤務施設を教えてください。/F3.先生の主な勤務先について、がんゲノム医療における施設区分を教えてください。/SQ3.先生の主な勤務施設の病床数を教えてください。

全体

- ✓ 年齢は30～50歳代が中心であった
- ✓ 診療科は98%が泌尿器科であった
- ✓ いずれかの役職に就いている割合は78%と、大半を占めた

年齢

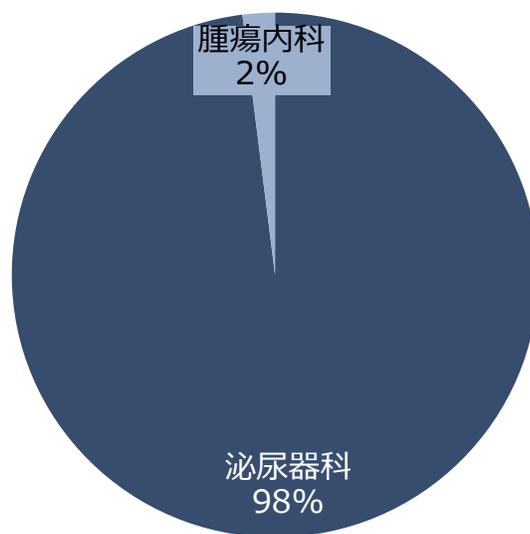
(n=202)



■ 20歳代 ■ 50歳代
■ 30歳代 ■ 60歳代以上
■ 40歳代

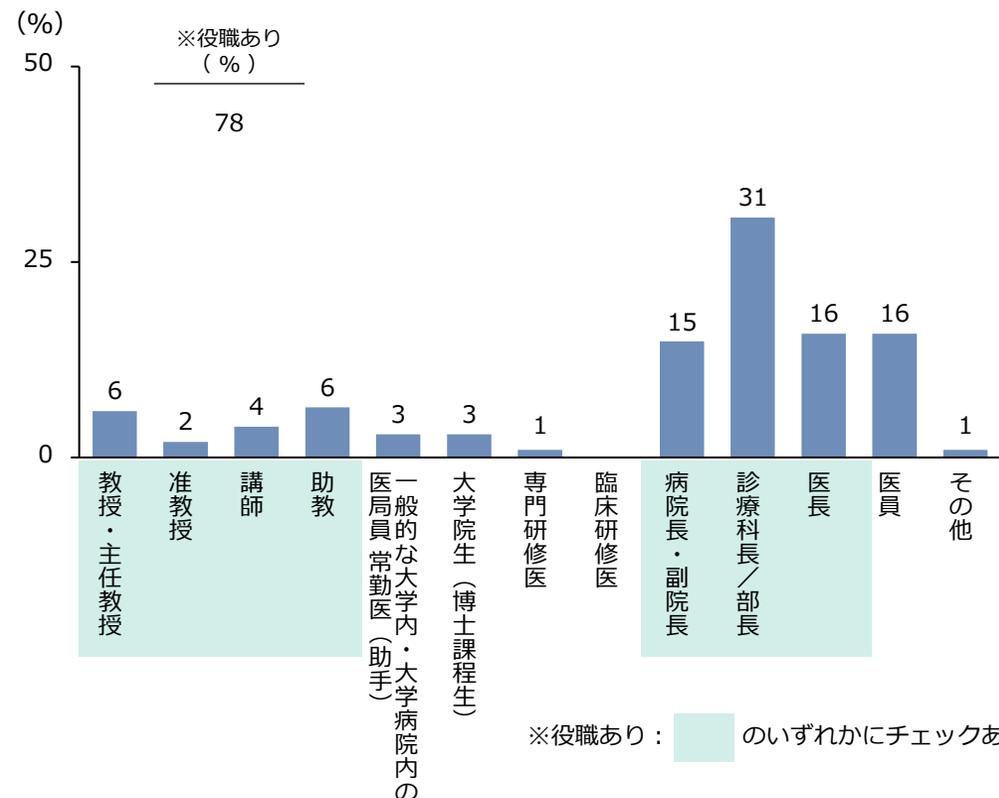
診療科

(n=202)



役職

(n=202)



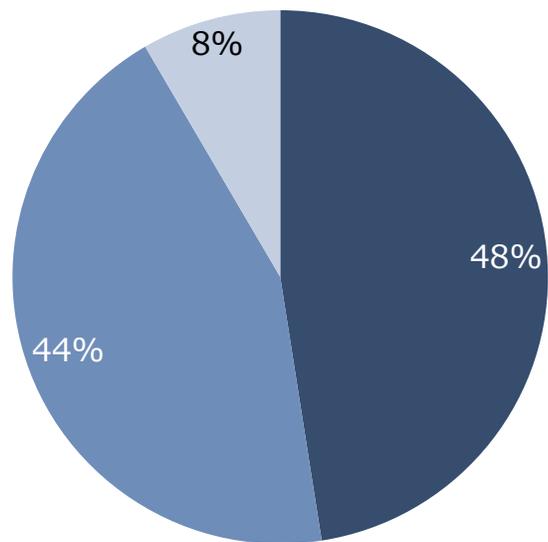
F2.先生のご年齢(世代)を教えてください。/SQ1.先生の主な診療科を教えてください。/F4.先生の主な勤務施設での役職を教えてください。

全体

- ✓ 薬剤の採用に関与している割合は92%であった
- ✓ 直近3年間で治験に関わった割合は32%であった
- ✓ 所属施設のエリアは関東が33%と最も多く、次いで近畿が20%の順だった

採用薬への関与

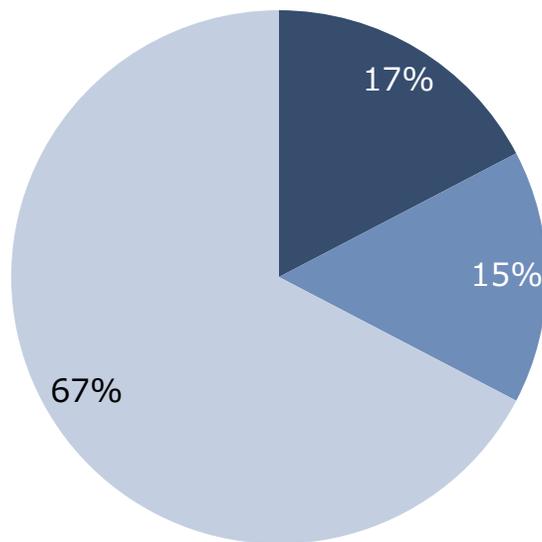
(n=202)



- 採用薬の決定権がある
- 決定権はないが、意見を出している
- 特に関与していない

治験への関与

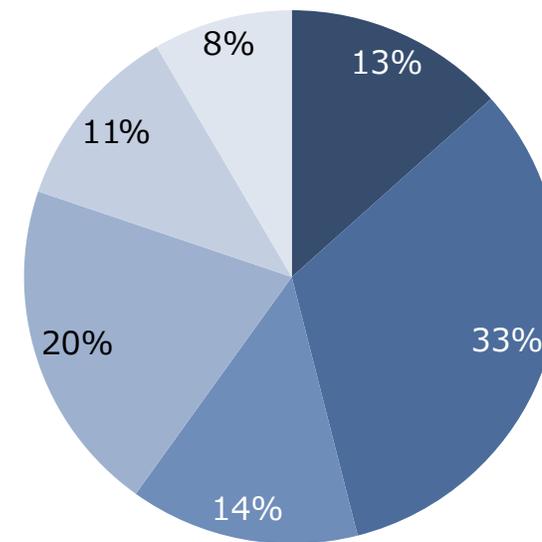
(n=202)



- 現在、関わっている
- 現在は関わっていないが、直近3年間は関わっていた
- 直近3年間では関わっていない

所属施設のエリア

(n=202)



- 北海道・東北
- 関東
- 中部・北陸
- 近畿
- 中国・四国
- 九州

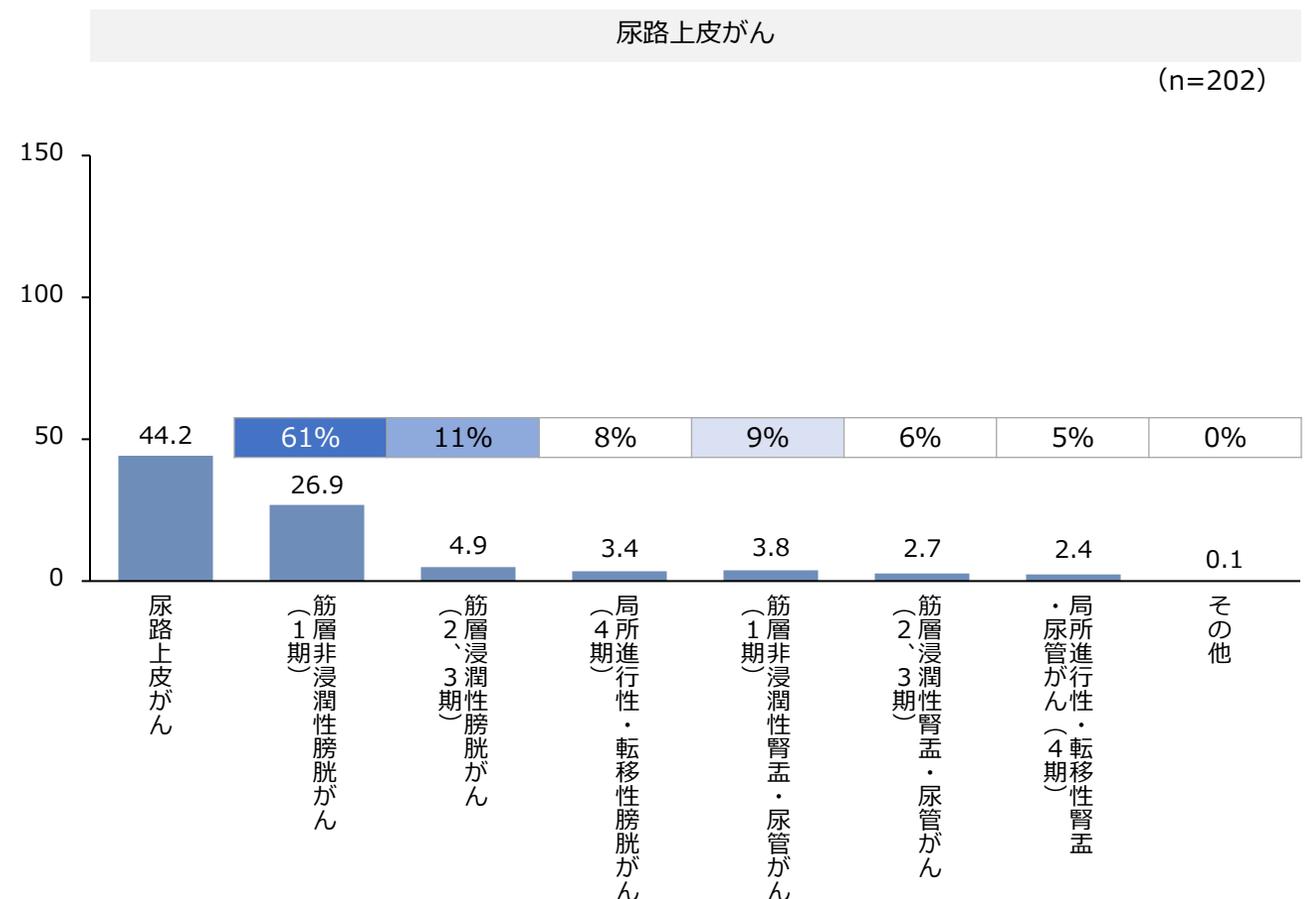
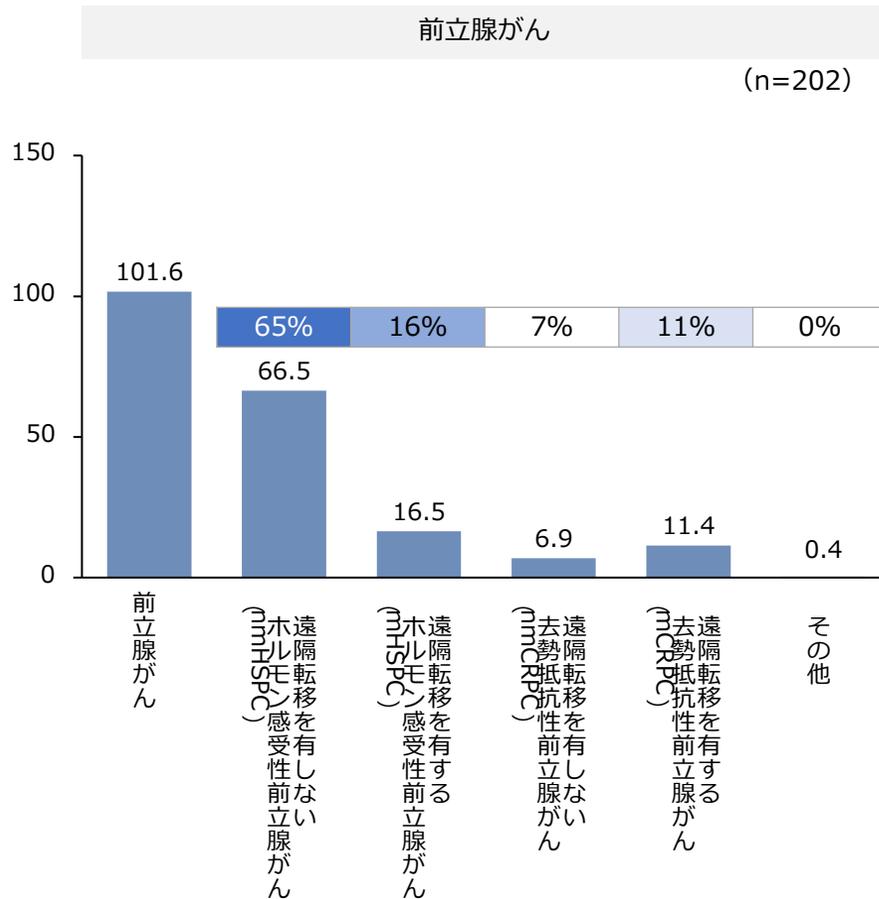
F5.先生の主な勤務施設における採用薬への関与度について、当てはまるものを選択してください。/F6.直近3年間に、泌尿器がんの治療に関する新薬や適応拡大などの治験への関与について教えてください。
F1.先生の主な勤務施設の所在地を教えてください。

全体

- ✓ 直近1年以内に診療した前立腺がんは「nmHSPC」が66.5%で最多だった
- ✓ 尿路上皮がんは「筋層非浸潤性膀胱がん（1期）」が61%で最多だった

※上段は各がんの患者数に対する割合（%）

(平均：人)



SQ4.【直近1年以内】に先生ご自身が診療した前立腺がんおよび尿路上皮がんの患者数（概数）をカルテベースで教えてください。/Q1.先生が直近1年間に診療した泌尿器がんの患者数について、カルテベースで教えてください。（数値入力）



Oncologist Fact Report

2023年3月版



CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。